

4月7日に発令された非常事態宣言が解除された。4月には今のNYが2週間後の東京だとよく言われていた。しかし、幸いにもそうはならなかった。日本の現状は、政府の対応が後手に回り、国民の政府に対する信頼は高くはないにも関わらず、感染者数・死亡者数とも欧米に比べて桁違いに少ない。日本では新型コロナウイルス感染の実態が未だに分からず、国民はいつどこで感染するか分からない恐怖のなかで行動自粛を強いられてきたことが大問題である。これまで政府の専門家会議が提唱してきた指針に国民は納得できずに従わされてきた。政府も責任逃れの方便として専門家会議を利用しているように見える。専門家会議の指針によって命を落とした人が多くいることを考慮すると、事態は極めて深刻であり、後日第3者委員会による検証が是非とも必要である。

感染研や専門家会議の対応に関する疑問は次の4点である。

- 1 多くの関係者からのPCR検査の増加や発熱外来の設置の要望への対応が遅れた原因
- 2 接触8割削減の根拠
- 3 感染収束の1つの指標として1週間の新規感染者数が人口10万人当たり0.5人とする根拠
- 4 日本の知見・体験・症例の世界への発信状況（国際貢献として）

「疑わしきは徹底的に検査して、陽性者を隔離する」ことが感染拡大を防止する方策であることは世界のコンセンサスであるにもかかわらず、日本ではPCR検査実施のハードルを高くして検査数を絞ってきた。現在ではこの方針は事実上転換されていると思うが、この方針のために犠牲になった人は多く、その償いもされていない。このような日本のやり方は、当初から世界の専門家から疑問視されていた。こっさり方針転換するのではなく、きちんと説明責任を果たさなければならない。

「検査数を今の4倍にすれば接触削減ゼロでも、現在の検査数&8割接触削減より早く感染者数を減らせる」（陽性者全員の隔離が前提）という説は衝撃的であった。「3密を避ける」はよく分かるが、「8割接触削減」がある日突然出てきて、未だにその根拠が十分説明されていないのは専門家会議の無責任・怠慢である。

ドイツでは経済活動再開が徐々に進められている。その際、1週間の新規感染者数が人口10万人当たり50人を超えたら再度規制を強化するとしている。規制を緩める時か強化する時かの違いはあるが、基準値が0.5人と50人では2桁違う。日本で検査数が圧倒的に少ないことを考慮しても、採用する基準値が2桁違うのはとても理解できることではない。

新型コロナウイルスに関しては世界中で研究が進められている。短期的には収束しないとすれば、①感染してからのプロセス、②どういう場合に重症化するのか、③無症状の割合や致死率、④治療薬やワクチンはいつ頃できるか、などこのウイルスに関する新しい知見を国民もある程度は知っておく必要がある。感染症の専門家がこれまで国民にどのような説明をしてきただろうか。専門家会議のメンバーは国民を不安に陥れるだけで、質問に対する回答は常識的で説得力の乏しいものか、独善的で根拠の乏しいものが多い。世界中で進められている研究の成果を国民に伝えるのも彼らの重要な任務のはずであるが、その役割は山中伸弥教授が彼らに変わって果たしている状況である。

図1・図2は9か国における人口10万人当たりの新型コロナウイルス感染者数・死亡者数の10日毎の推移を示したものである（横軸は日付、縦軸は人）。スペイン（SP）・イタリア（I）・フランス（F）・ドイツ（G）では感染拡大が緩やかになっているが、アメリカ（US）・イギリス（UK）・スウェーデン（SW）は感染者増加の勢いは顕著には低下していない。日本（J）や韓国（K）の感染者数は桁違いに少なく、何か特別な要因があるかも知れない。日本のPCR検査数

が他国に比べて極端に少ないことを勘案して、試みに日本の感染者数を 20 倍にして図示すると図1のJ II のようになり、4月まではスウェーデンに近い形状であった（5月に入って感染拡大が緩やかになっている）。

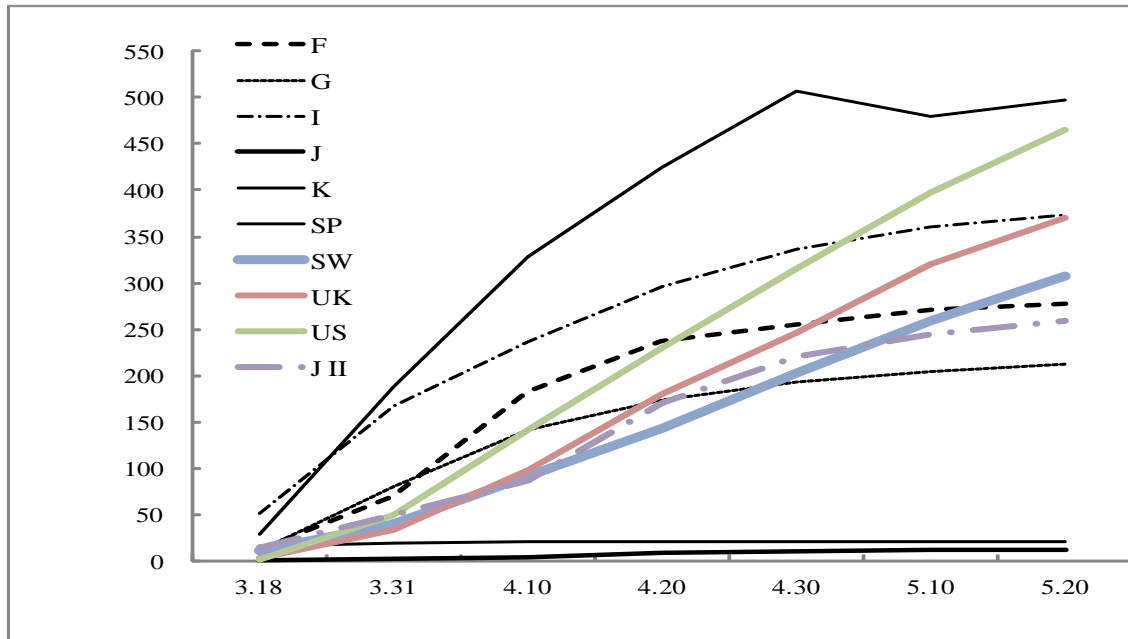


図1 人口10万人当たり感染者数の推移

人口 10 万人当たりの死亡者数の推移をみると、スペイン、イタリア・イギリス、フランス、スウェーデン、アメリカの順に死亡者が多く、ドイツは圧倒的に少ないが、日本と韓国はさらに奇跡的に少ない（各国とも新型コロナウイルス感染による死亡者数は過少とみられている）。

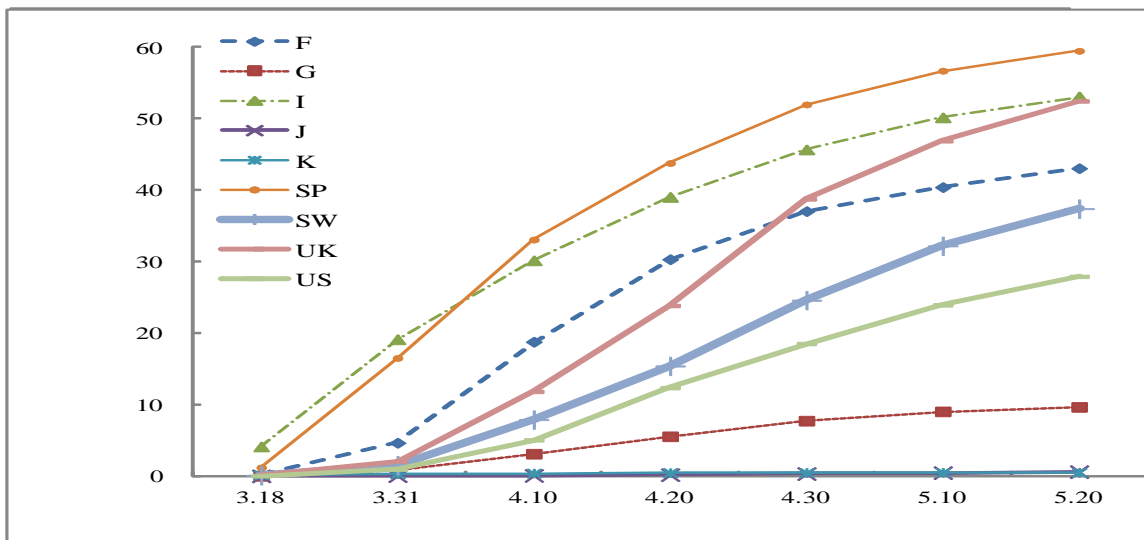


図2 人口10万人当たり死亡者数の推移

日本政府の対策は中途半端なのに日本の感染者数・死亡者数は異次元の少なさである。この「日本の奇跡」の原因を世界が注目しており、山中教授はファクターX と名付けてその解明を促している。政治の世界では取って代わる者がいなければ、正当に政権を続けられる。しかし、科学の世界ではエビデンスに基づかない主張は一瞬たりとも正当性をもたない。